

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第4回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 自主的審議事項（公開）

・旧高土スポーツ広場（旧高土中学校跡地）の活用策について

① 現場視察を踏まえた意見交換

② 地区アンケートについて

3 開催日時

令和4年7月7日（木）午後6時30分から午後8時30分まで

4 開催場所

高土地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：青木正紘（会長）、上野秀平、玄蕃郁子、杉田一夫、高橋清司（副会長）

田中利夫、塚田春枝、日向こずえ（副会長）、松山公昭（欠席3人）

・高土地区振興協議会：横川純一（会長）

・事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青木会長】

・挨拶

【山崎主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【青木会長】

- ・会議録の確認者：上野委員

次第2 議題「(1) 自主的審議事項」の「旧高士スポーツ広場（旧高士中学校跡地）の活用策について」の「① 現場視察を踏まえた意見交換」に入る。事務局より説明を求めらる。

【山崎主事】

- ・旧高士スポーツ広場現場視察を受けた意見交換を依頼
出た意見はホワイトボードに書き出していく。

【青木会長】

では意見交換を始める。

現場を見て感じたことや活用に必要な設備等について、意見を求めたいと思う。

参考資料を見て、短期的・長期的に何をしたいかということを考えてもよいと思う。だが、全部を行えるわけではないので、出た意見を意見書としてまとめていければよいと考えている。すべての委員より発言を願いたい。

【松山委員】

思い付いたものをホワイトボードに書き出し、その後、いるもの・いないものを皆で振り分けていくやり方はよいと思っている。

「活用策の案」の中の「広場・公園」については、自分はすべてよいと思う。「施設」については、自分が発案した「ソーラーパネル」以外は全ていらぬとした。

他の委員の意見を確認しながら進めていくことが1番早いと思う。

【小林センター長】

事務局より補足である。

今回の会議ではホワイトボードを活用している。ホワイトボードのよいところは、出た意見をすべて書き出し、見ることができる。ぜひ意見をすべて出してほしい。

できれば、出た意見を消す作業や批判する作業はあまりせず、本日は意見を出し尽くしてほしいと思っている。質より量ということである。

そして、この後に地域住民よりアンケートを取るため、それと結合をした中で、最終的には8・9月にかけて、1つの意見にまとめていきたいと考えている。

意見を出す機会は限られてきているため、本日は多くの意見を出してほしい。出た意見については、あまり批判せず聞いていただきたい。

【松山委員】

「環境整備」はぜひ考えていかなければならないと思った。

【青木会長】

事務局より補足説明があったように、今日は各自が思っていることを話していただき、それを基に近いうちにまとめていくことになると思う。

次に、塚田委員より発言を求める。

【塚田委員】

今日、改めて現地に行ってみて、すごく広いと感じた。管理も非常に大変だということは一目瞭然である。

活用策の中で、芝生やアジサイ、桜の木を植えるといったことは、将来的には、草刈り等の負担軽減になると思うが、それを育てるまでにかかなりの労力がかかる。その問題をどのようにしていくのか気になる。

ものすごく広いため、広場であれば、必要な設備も少なく、使い勝手もよいと思う。草花があれば見に行けるし、散歩コースもできる。また、ゲートボールや雪遊び、ドローンの練習場にもなり、多目的に使えると思う。

ただ、そこまでもっていくための資金や手間等、どうやって調達すればよいのか、そういったことが本当に大きな問題だと思う。

またそういったものを作ることを目的とするのであれば、環境整備として、やはり水道・電気・トイレはぜひ必要だと思う。

【小林センター長】

事務局より補足である。

塚田委員の発言にあったように、当然、整備が必要だという話が出てくると思っている。そして、その整備をどうするのかとの話も出ると思っている。

それについては、やり方は3つある。

一つは、市に事業化してもらおう方法である。それが以前説明した「元気事業」というやり方である。

「整備してほしい」といっても、何が欲しいのか具体的な提案をする必要がある。それを市の担当課が事業化することになるのだが、そのためには、実際に実働しても

らう団体を見つける必要がある。

団体と地域協議会と市の「三位一体」で事業化するのが元気事業である。

また一つは、これは実現可能性としては、元気事業ほどではないかもしれないが、「これが欲しい」ということを、市長に意見として上げる方法である。

それが「意見書の提出」である。

もう一つは、スポンサーや団体を見つけて、地域内で課題を解決するということがある。

自主的審議のまとめ方については、以前配布した資料に記載してある。その資料を本日も改めて配布するため、手元に置きながら進めてほしい。

本日は意見を出す場であり、次回以降の会議ではそれをどのようにまとめていくのかを考えていきたいと思う。

【青木会長】

これからの努力次第だが、道は閉ざされていないと考えて進めていきたい。

次に田中委員の発言を求める。

【田中委員】

今の話でいうと、結局、意見書といった話になるのか。

そうではなく、ただ、「何が必要か」といった話のほうがよいのか。

【青木会長】

具体的に何を行えばよいのか、ということである。それには「これが必要」といった話もあるかもしれない。また「短期的にはこれがよい」「長期的にはこれが望ましい」といった視点でもよいので、意見を出してもらえればと思う。

【小林センター長】

多分、順番としては、「自主的審議のまとめ方」というのは後の話である。まず、地区として何が欲しいのかをこの場で吐き出し、それを最後に1つにまとめて「これが欲しい」という話になる。

それを実現するためには、市長に意見書を提出するのがよいのか、または市の担当課と事業化することがよいのかということは、最初に描いた理想像によって変わってくるはずである。

順番としては、まずは意見を出してもらい、何が1番この地区にふさわしく、1番よい使い方なのかを決めてもらうことである。

【松山委員】

それは今日ではないということでしょうか。

【小林センター長】

最終的に決定するのは今日ではないと思っている。今後行うアンケートの結果も含め、最後に集約していく。集約した後は、それに向けて、元気事業なのか・意見書の提出なのか・地域での課題解決なのか、といったやり方を次に考えていく。このような順番を事務局では考えている。

【田中委員】

そうすると、やはり1番手っ取り早いのは、まずは「広場を作る」ということであり、芝生等の整備が自分には必要だと思う。

そして、水道・電気・トイレ等のライフラインがないと完全にはうまくいかないと思う。

最近では保育園でも、スポーツ広場とって子どもたちは喜んでいるが、結局、今はトイレがないことが1番大変だと思う。最低でもトイレと手洗いはできなければうまくないと思う。

それから、グラウンドとの段差から落ちても困るため、手すりも必要だと思う。

手すりのほか、近隣では皆、畑をやっているため、境界が分かるように柵を作ったほうがよいと思う。ロープをはるだけでもよいと思う。

苦情が来ていろいろと問題になる前に、そういった整備から始めてはどうか。

また、草刈りは現在、管理委託をしているようなので、とりあえずはそれでしのいでいくこととして、まずは芝生等にして何にでも使える広場にすることが、1番手っ取り早いと思う。

【青木会長】

次に杉田委員の発言を求める。

【杉田委員】

本日、現場視察をしたが、かなり広い面積があると思った。多目的に使用できる広場として、人が来たときに最低限欲しいものとしては、やはりトイレや水道である。

また、できれば駐車場も整備してほしい。

そして冬場のことも考えて、除雪を容易にできるように、道路の拡幅等も行なってほしい。

施設としては長期的な計画で考えていけばよいと思う。

【青木会長】

次に玄蕃委員の発言を求める。

【玄蕃委員】

整備をするよりも先に、どう活用していくのかというか、まずは活用実績を作っていかなければならないように思う。例えば、元気事業や他のことをするにしても、根拠となる活動が何もされていないのに「これを作りたい」といっても、多分そこには結びつかないと思う。

自分としては、広場や公園等、最初からいろいろなものをたくさん盛り込むのではなく、できることから、できる事業をしてはどうかと思う。

この会議が始まる前に、松山委員から「年3回の草取りの後に何かやってはどうか」という話があった。やはり、まず必要なこととして、例えば、子どもたちと共にできる活動で実績を作る、または暑くない時期に高齢者の方々から何かしてもらおう等、草刈り後の綺麗な時期に、何か実績を作ったほうがよいと思う。

そして、その時にトイレが必要であれば、最初はレンタルがよいと思う。最初から「トイレを作る」という構想にはならないと思う。

その他、水道はどうするのか等、いろいろとあるが、まずは身近なところから始めてみて、徐々に要求を上げていくというか、「これだけやっているため、次はこれがほしい」となればよいと思う。

何も活動していないうちから、市に「あれとこれを作ってほしい」と言ってもできないと思う。

資料に記載されているものの中で、まず「施設」は無理だと思った。

まず、用地管財課があそこの施設をすべて管理しているということは、「施設」という部分については用地管財課の責任でやっていくことであり、自分たちは要望としてあげることはできても、あまり過大な要望はできないと思った。

だが、「広場・公園」や「イベント・活動」の2番手くらいまでの間であれば、例えば、5年くらいのスパンで少しずつ量を増やしていき、実績を積んでいく中で、トイレ等、そういうこともお願いできるようになるかと思った。

【青木会長】

次に上野委員より発言を求める。

【上野委員】

他の委員のいろいろな意見を聞き、自分なりに考えることとしては、玄蕃委員の意見にあったように、まずは実績を作らなければならないと思う。あの場所を活用することが1番大事だと思う。実績が上がってきて、市に要望を出すというかたち作りが必要だと思う。

高士地区体育協会では、今年度あの広場でノルディックウォークを行う。次に考えることとして、グラウンドゴルフや、他の競技もできるのではないかと、まずはかたち作りをしていくべきだと思う。

また先ほど松山委員の発言にあった、ソーラーパネルを設置すれば1番簡単だと思うが、それに興味を持つ業者がいなければ意味がないと思う。

まずは、あの場所を活用して実績を作り、「これだけ高士地区がやっているため、トイレが必要」となっていくと思う。

また玄蕃委員より「施設は難しい」との話もあったが、やはり広場や公園として、あの場所を整備していけばよいと思っている。そして、あの場所を高士区民や他区民も集まれる場所にして、「高士地区に広場がある」ということが発信できればよいと思っている。

【玄蕃委員】

自分は先ほど、「施設は無理だと思う」と発言したが、皆の希望を聞くことが大事なので、要望をあげることはよいと思う。

【上野委員】

将来、子どもたちに対して、あくまでも「負の財産」にしてはいけないと思う。

そのためには、やはり公園等、楽に管理ができるようなかたちがよいと思う。

【青木会長】

次に日向副会長より発言を求める。

【日向委員】

自分の子どもが高士小学校にいる。子どもが学校からアンケート結果をもらってきたのだが、「活用策が決まったのか」と聞かれた。そして、「今日、決まるのか」と聞かれながらここに来た。それだけ、子どもたちはあの広場がどうなるのか気になっているようである。

アンケートを取ったこともあり、「自分たちの意見で何かになる」といった思いで、

友達の中でも話が出ているとのことである。「これは何とかしなければ」と、親としても日々思っている。

子どもたちの様子を日々見ていると思うのだが、子どもたちは広場があれば何でもできる。

最近、上越タイムスに中川市長の記事が掲載されていた。「9月までにできるだけ意見を出してほしい」との記事であった。

自分としては、「出したもの勝ち」という面もあり、先日の正副会長での事前協議の中でも「9月までに意見書を出したい」といった発言をした。

「広場であれば申請が通りやすい」と思っはいけないと思うのだが、まずは広場を整備してもらい、そこから実績を上げていって、その後、トイレ等、必要なものを要望できればよいと思っている。

本当に子どもたちは期待している。

【青木会長】

活用策の案として出ている中の「広場」のことである。

どれを行うのかは別として、とにかく、子どもたちが安心して遊ぶことができる広場を作りたい、ということだと思う。

次に高橋副会長より発言を求める。

【高橋副会長】

本日、現地を確認して、あの広場を利用するにあたって、グラウンドと通路の段差は危険であると、全員が認識したと思うため、まずはそこをガードしてほしい。

また、他にも意見が出ていたが、階段の高さが高すぎるため、敷地内での安全面の確保が第一ではないかと思った。

次に、どのような活用がよいのかについては、他にも意見があったように、やはり、多目的広場的な活用方法がよいと思っている。子どもたちが遊べるような広場、スポーツ広場として、今のグラウンドは使っていかなければいけないと思う。

ただ「グラウンドの活用」「スポーツをするだけ」ではなく、いろいろなことができると思う。

そういった利用価値は多様にあると思うので、それはいろいろと考えなければいけないと思う。

そして、まずは実績を作らなければならない。

地区の皆さんにスポーツ広場の現状を発信して、そこで何ができるかということをご皆さんから考えていただく。そして、実施した内容について、これも必要ではないか、あれも必要ではないかというように、1歩1歩改善していくというところからスタートしていったら、かたちが見えてくるのではないかと思います。

【青木会長】

私も一委員として、意見を述べたいと思う。

大体、同じことだが、具体的に住民が何をやりたいかということである。

高士には立派な老人会・婦人会等、いろいろな団体がいる。もちろん、体育協会もよく頑張っており、実際に活用の提案もしてくれている。

例えば来年度、振興協議会が「あの広場で祭りを行いたい」「このように整備したい」とか、老人会としては、毎日散歩に来ている保育園児のために「お花畑を作りたい」とか、このように具体的に出していく必要がある。

できる範囲で、あの場所にできるだけ多くの人が集える、楽しめる場にできればと思っている。

【塚田委員】

もう1つ気になることは、高士スポーツ広場の実績についてである。

やはり高士地区の人たちだけでは、市にアピールできるだけの実績を作ることができるのか、自分には自信がない。

人口減少というか、子どもたちは遊んでくれるかもしれないが、大人に集まってもらうにはどうしたらよいのか。

例えば、高士地区全域で花を植えるにしても、協力体制が作れるのか気になる。その辺は、高士地区振興協議会に頑張ってもらえるものなのかなと思っている。

【松山委員】

具体的な話として、今年度は体育協会でもノルディックウォークを計画しているので、それが1つの実績になる。

上野委員に確認である。

例えば、旧高士スポーツ広場のグラウンドの中で消防車が水を出すことは可能なのか。それができるのであれば、防火訓練のようなことができるのか、教えてほしい。

【高士地区振興協議会 横川会長】

消火栓が1つでは厳しいと思う。

【上野委員】

簡単なやり方は考えれば、できるとは思う。

【松山委員】

消火栓の水はかなり少ないのか。

【上野委員】

あの場所は除却されたため、消火栓の水圧については非常に低いと思う。

以前、工事業者の作業を見ていたのだが、水道を使用する際、マックスには水が出てこなかった。

その程度の水道管の太さなのだと思う。どの程度の水が出るのかについては、消防としても確認していないと思う。

【松山委員】

消防部として、あの場所でそういったことを行ってもらうことは不可能ではないと思う。

例えば、どこかから水を引っ張ってくる等、そういったことで利用できないものか。

【上野委員】

防災・防犯協会、並びに消防団に相談して考えなければならぬため、この場ですぐに返答はできない。

7月23日の草刈り作業に消防団も来るため、その際に確認したいと思っている。

【松山委員】

確か、地区の消防団で集まり、水を出していると思う。

【上野委員】

出していない。

昔は、「お嫁さんが来た」「子どもが生まれた」といった際に、屋根の上に水を出していたのだが、今は行っていない。

【松山委員】

そういったことがあの場所で何かできないものかと思うのだが、水圧的にできないということであれば、何か他の方法等はないのかと思っている。

【青木会長】

いろいろな意見を出していただいた。

それを実現できるもの・できないものにと捨選択していくことは、次の段階だと思

う。

本日は高士地区振興協議会の会長より出席いただいているため、何か感想等があれば発言願う。

【高士地区振興協議会 横川会長】

参加させていただき、感謝する。

以前に、町内会長を加えた意見交換を行った時のことが、だいぶ整理されたと思う。

広場にすることが、やはり経費的にはそれほどかからずに、ある程度は整備ができるのかと思う。

また現在、振興協議会の役員での話の段階なのだが、岩の原葡萄園に活用してもらう方向性で何とか話合いができないものかと検討を始めている。今、十二ノ木の農協の倉庫の川を挟んだ向こう側にポットのブドウ栽培を始めた。それを現在、清里のグリーンファームでもやっている。また妙高市の醸造も岩の原葡萄園が受けている。

例えば、旧高士スポーツ広場の一角にポットを持ってきて使う等、事業の方向性について話をしたいと思っている。

次に、意見を上げるという部分では、10月頃に予定されている、雄志中学校区の市長との懇談会の場でも、一定の意見を絞り、何人かの代表から出席し、地域の意見として出していく機会にしていきたいと思う。

実績作りとして、いろいろな高士地区内の団体名が出たが、本当にやるとなれば各団体総動員で、盛り上げていって実績作りをしていかなければならないと思う。あれだけの広さがあり、年に3回、草刈りを行ってもあの状態である。

総力を上げるためには、もう少しいろいろな意見が出てほしい。今はその段階だと思うが、その旗振り役の部分については、振興協議会も入っていききたいと思う。

【青木会長】

自分がやってほしいと思っていることを、言っていた。

「誰か、手をあげてほしい」といっても、なかなか手があがらないと思う。

そこは、これまでの高士の力を十分に出し、そういうものを柱にして、元気事業に手をあげることがよいというか、それだけは高士区地域協議会でやりたいと、会長として思っている。

先ほどの振興協議会会長の話にあった、岩の原の件についても、ぜひ話に乗ってもらいたいと思っている。

【玄蕃委員】

岩の原の話として、善兵衛翁は「ブドウを品種改良し、どうしたらよいワインが作れるのか」という考えであったが、その後に来た人はサントリーの人は、「どうしたら観光農園ができるのか」という考えであった。

それで岩の原小唄を作成したり、自分もこの地域の間人ではなかったが、ブドウ棚までよくバスに乗って1番高いところで弁当を広げて食べたりした。

もしかして、そういったことをすると別の意味で活用は広がるかもしれない。だがそれは、長期的であり、先のことだと思う。

もう1点。これまでに地域活動支援事業費を活用してきた団体はたくさんいる。

1団体で1つの事業をやろうとするとすごく負担があるが、このように考えてはどうか。

例えば、体育協会等の団体が子どもたちを集めて何か行った帰りに、公民館に寄ると他のグループや団体がお昼を作ってくれる。

このように、何か付加価値のあるものを他の団体と組んで行くと、何かもう少し大きなものができてくる、そういった実績を積んでいくことがよいと思う。

【高士地区振興協議会 横川会長】

体育協会で3地区交流のグラウンドゴルフを計画している。来年度は高士地区で行うといったことを聞いた。場所をスポーツ広場に変えて行うという事もできると思う。

水は水筒を持ってきてもらえばよいため、先ほど話にあった仮設トイレだけでも設置できれば、高士地区内のグラウンドゴルフ大会等が行える。

まずは使っていかなければ駄目だと思う。一定の音頭取りは、体育協会と相談をしながらになるが、そういった時に、他の団体が何人協力できるのか。

例えば、「婦人会が何をする」「消防団が何をする」というように、何かもう少し総力を挙げたかたちで進められることが1番よいと思う。

【塚田委員】

グラウンドゴルフは草刈りをした後すぐにできるのか。

【上野委員】

グラウンドゴルフは平らなところでやる競技だが、複雑なところでやる競技でもある。そのため、草刈りをした後でも大丈夫である。

【塚田委員】

自分は砂をならす等、しなければならぬのかと思っていた。

【青木会長】

自分は1度だけグラウンドゴルフをしたことがある。

戸野目小学校のグラウンドで、少し土が高く盛られた部分があるのだが、そういったものを利用してターゲットを置いて行った。そのため、どこでもやることができる。

本日現地を歩いてみて、適当に草が生えていたため、そのようなところは非常に適していると思った。

ついでに言うと、高士地区内には大会で優勝するような上手な人もいる。そういう人にグラウンドを1度見てもらい、具体的に話を進めていくことが大事だと思っている。

【松山委員】

自分の頭の中では、グラウンドとその上を完全に分けて考えている。

グラウンドは人工芝を敷けばよいと思っていたのだが、今、年に3回、草刈りをしてもらっているのであれば、年に3回、イベントを行えばよい。それはそれほど面倒なことではない。

【上野委員】

松山委員の発言にあったように、「何かやろう」といった時、その旗振りをどこがやるのかをきちんとしなければならない。1つの団体にだけ集中するのでは、どうしようもないと思う。従って、地区全体として考えていくべきではないかと思っている。

もう1点補足する。今回のノルディックウォークの時には、旧高士スポーツ広場を歩いた後、公民館で豚汁を作って食べるという予定で動いている。

【高士地区振興協議会 横川会長】

近隣で、グラウンドゴルフができる常設された施設のようなものはあるのか。

【上野委員】

常設とはコートのことか。グラウンドゴルフはどこでもできる。

ゲームは8ホールまでであるのだが、ホール数を減らす・距離を短くする等、グラウンドがあればどこでもできる。

例えば、公民館でも行うことができる。各町内の公民館に小さな広場があるが、そこで3コート作って、時間を稼ぐために2回まわればよい。そのようなやり方もある。

現在、高士地区の体育協会ではグラウンドゴルフセットを4セット所有しており、

貸出もしている。

【小林センター長】

ここまでで聞き取った内容をホワイトボードに記載したため、確認する。

【山崎主事】

- ・ 記載内容、読み上げ

【小林センター長】

記載漏れがあったとしても、議事録をおこしているため、次回・次々回の会議で出た意見を取りまとめて配布し、今行っているアンケートの結果も加味しながら、1つにまとめていく作業に入っていく予定である。だが、この作業を進めるにあたって、時間的な制約の話が出てきた。

まず、作りたいものを決めることが1つ。そして、それをどのようなかたちで実現していくのかについては、「元気事業」「意見書の提出」「地域内での解決」の3パターンが考えられるということ。

これについては、市長の言葉にもあったとおり、9月末までにどの方法で行うのかを決めて市に提出すれば、来年度予算として反映される可能性があるとの含みがある。そうすると「9月末」という締め切りが見えてくる。作業も8月・9月までに仕上げなければならないのだが、これが最後ということではない。

今の状況であれば、元気事業は来年度も継続していくということであるため、令和5年度に間に合わなかったとしても、令和6年度に向かって、じっくりと考えていく方法もある。

中では、実現可能性を高める意味で実績を作っていく、実績ができたところでエントリーしていく方法もある。

ここからは本当に様々な方法を、戦略的にやっていかなければならなくなってくると思っている。

そういった話合いもしていきたいと事務局では考えている。

【松山委員】

今年度490万円あった地域活動支援事業の配分額が次年度はないと思っているが、この490万円を次年度の実施事業にどんと入れるぐらいの考えではだめか。

【小林センター長】

残念ながら、それは自分が回答できるものではない。

「490万円」と具体的な数字が出てきたが、これは地域の活動団体が申請した「地域活動支援事業補助金」という制度である。今ここで話をしていることは、地域協議会で自主的審議としてやっているものであり、490万円の補助金とは違うものである。

地域活動支援事業は今年度で終了となるが、高土区に対して幾らの元気事業分としての予算があるのかといったことは決まっていない。

【松山委員】

だが490万円を下回ることはないと思っている。490万円出すことはできると思う。

【小林センター長】

現時点では何とも言えない。

予算ありきで考えるのではなく、まずは「何をやりたいのか」を検討し、それに対する必要な経費を考えていくといった順番で考えていただきたいと思っている。

【青木会長】

以上で「① 現場視察を踏まえた意見交換」を終了する。

次に「② 地区アンケートについて」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料1に基づき、地区アンケートの内容及び実施方法を説明

【小林センター長】

- ・各町内へのアンケート実施について、補足説明

【青木会長】

各町内の班長を対象として、これまでに行ってきた小学校児童と保護者へのアンケートと同じやり方でアンケートの実施を考えている。

今ほどの説明について質問を求める。

【松山委員】

「高土地区町内会 班長各位」とあるが、自分は「各位」との言葉を使わない。「班長様」「班長の皆様」という記載にしていきたい。

そして、役職者に出すものであるため、例えば、「飯田町内会 班長」等、無記名のアンケートでないのであれば、そのような記載にしてほしいと思っている。

【小林センター長】

記名することは、対応可能である。

【青木会長】

記名したほうが、自分のもとにアンケートがきたとの自覚が強くなると思うため、できるのであれば事務局は対応願う。

【塚田委員】

自分は率直な意見として、匿名のほうがよいと思っている。

やはり特定の人たちが抽出されるのではなく、いろいろな標本が集まるという意味では、班長を対象としてアンケートを取ることはよい選択だと思う。

【小林センター長】

実はこういった調査をする場合には、年代のばらつき・性別のばらつきが非常に大事なのである。

ただ今回については、年代を特定してお願いすることは難しい調査であることを承知いただきたい。そこまではコントロールできないと思っている。いろいろな人たちからの回答が集まることを期待して調査したい。

先ほどの松山委員の意見にあった「各位」との言い方は、「皆様」に直したいと思う。

個々の町内会名等を記載することは対応可能だが、効率や匿名性も考え、「高士区 班長様」と記載することを理解いただければと思っている。

【松山委員】

先ほど、自分はよいと言ったが、例えば、「飯田町内会 第6班 班長」と書くとした場合、回答した人としらない人が分かってしまうため、やはりやめたほうがよいかもしれない。

【青木会長】

では、そのようにしたいと思う。

【玄蕃委員】

子どもたちに夢を語ってもらうこととは違って、今回は、実現性があるものがある程度見えてきている段階だと思う。

子どもたちを対象としたアンケートとの整合性を取ることはよいが、質問1と質問4については、夢だけを語ってよいのかというところが少し心配である。

班長たちからすると、「これができる」といい、そういった丸のつけ方をされては、自分は違うような気がする。

例えば、あくまでも旧高士スポーツ広場は用地管財課の土地であるため、要望したからといって叶うものでもない。だが、もしかすると将来的に要望していくことがで

きるのかもしれない。

そういったところを少しでも理解いただいてアンケートに回答してもらうことと、このままの内容でアンケートを出した場合では違うと思うが、PTAの人たちは割と普通に回答していると思った。感覚的に「それでよいのか」というところが自分は少し心配だった。

【小林センター長】

事務局より補足である。

玄蕃委員の意見にあった項目については、資料1の表紙の下部「空から見た旧高士スポーツ広場」の右側に、米印でアンケート結果の使い方について触れている。

「アンケート結果は、市に対して意見や提案をするための検討材料として利用させていただきます」とあり、この1文に込めた思いとしては、検討材料であって、必ず実現するものでもなく、地域協議会で話合うための材料として使用するということである。安易に記入したからといって、必ず実現するものではないということを伝えなかった。

【塚田委員】

もう少し踏み込んだほうがよいのではないか。

【上野委員】

太文字にすれば目がいくと思う。

【松山委員】

質問内容はよいと思うが、最後に「ご自由にお書きください」という欄を、ぜひ作ってあげてほしい。

またこのアンケートは、地域協議会だよりが出る前に各班長のところに行くと思うので、高士小学校で取ったアンケートについては、地区内の人たちはまだ一切、見ていない。実際には無理だが、それを先に見せたいと思った。子どもたちの願いを大きく取り上げたいと思っているため、自分はこちらのほうが大事だと思っている。

【小林センター長】

項目では作っていないが、すべての質問の最後に「その他意見」というかたちで自由記入欄を作っている。

【青木会長】

いろいろな意見があったが、以上のような内容でよいか。

(よしの声)

各班長にお願いするため、何か聞かれた際にはスムーズに進むよう、対応願う。

【高士地区振興協議会 横川会長】

日程的には、概ねどのように考えているのか。

【小林センター長】

来週の月曜日から、町内会長に連絡をして、アンケート用紙を持参の上、依頼したいと思っている。

回収については、返信用封筒でまとまった分を市に送り返していただくということで完結したいと思っている。

【高士地区振興協議会 横川会長】

締切はいつか。

【小林センター長】

アンケート回収期限は、7月24日に設定している。

来週配布すれば、再来週くらいには各班長の手元に行くと思っている。その後、1週間の中で回答していただき、24日を目途に回収したものを返送いただくという流れで考えている。

【高士地区振興協議会 横川会長】

地域協議会だよりは7月号として出す場合、大体、25日頃を目途にすべての回覧物等が揃うようになっている。ウェブアンケートに回答する場合は、それ以降の締め切りとなるのか。

【玄蕃委員】

8月15日となっている。

【高士地区振興協議会 横川会長】

そうすると、先ほど話があった、「9月までに」という期限は、並行して進めていかなければ厳しいと思う。

【小林センター長】

アンケートだけの話をすると、町内会長からいただいたものを集計し、ウェブアンケートもインターネットですぐに回答が出るため、8月15日までにはすべてのアンケート結果が分かるようになっている。

よって、8月15日以降に設定された地域協議会には間に合うと思っている。

そのあとの、「9月までの」という最後の締切は、確かに難しい話である。

【松山委員】

8月の地域協議会はいつを予定しているのか。8月15日より前にするわけではないと思うのだが。

【小林センター長】

お盆もあるため、この後、協議いただくのだが、正直、都合によっては、お盆前ということもあると思っている。その場合、アンケートについては、次回に持ち越しになってしまう。

【松山委員】

それであれば、ウェブアンケートの集計はすぐにできるため、締切を8月5日や6日としてはどうか。

【小林センター長】

そこは事務局で調整したいと思う。

順番に行っていくつもりであり、最終的にはすべての結果を委員に見せるつもりであるため、そこは流動的に動きたいと思っている。

この後、次回の協議会の日程を調整するが、それに合わせて事務局は準備をすることを理解してほしい。

【青木会長】

地区アンケートについては、これでよいか。

(よしの声)

以上で次第2 議題「(1) 自主的審議事項」の「旧高土スポーツ広場（旧高土中学校跡地）の活用策について」の「② 地区アンケートについて」を終了する。

次に次第2 議題「(2) その他」に入る。地域活動支援事業の審査結果について、事務局より報告を求める。

【山崎主事】

- ・参考資料を基に、審査結果を報告

【青木会長】

今ほどの説明について質問を求める。

(発言なし)

以上で次第2 議題「(2) その他」を終了する。

次に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。

— 日程調整 —

- ・ 次回の協議会：8月9日（火） 午後6時30分から 高士地区公民館
- ・ 内容：自主的審議事項

【高橋副会長】

- ・ 閉会の挨拶

【青木会長】

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。